

# 報告書抄録

ふりがな	まつばらこふんぐん							
書名	松原古墳群 I							
副書名	一般国道9号（鳥取西道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	I							
シリーズ名	鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	30							
編著者名	小口英一郎、野田真弓、北 浩明、岩垣 命							
編集機関	鳥取県埋蔵文化財センター							
所在地	〒680 - 0151 鳥取県鳥取市国府町宮下 1260 TEL (0857) 27 - 6711							
発行年月日	西暦2010年3月19日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
まつばらこふんぐん 松原古墳群	とっとりけん とっとりし まつばら 鳥取県鳥取市松原 198番地 外	31201	1 - 122 ) 1 - 127 1 - 412 1 - 413 1 - 461 1 - 462	35° 29' 34"	134° 08' 16"	20080404 ) 20081023	3,974.8 m <sup>2</sup>	一般国道9号鳥取西道路改築工事
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
松原古墳群	集落 古墳群 墓地	古墳時代 中世・近世	古墳10 竪穴住居跡1 段状遺構3 集石5 土坑12 埋設土器1		弥生土器、土師器、須恵器、 陶磁器、鉄製品、玉類、石塔、 石器		古墳時代後期の古墳群。 横穴式石室1基含む。 中世以降の石塔多数出土	
要約	<p>古墳時代～中・近世の複合遺跡。古墳時代前期には段状遺構がつくられ、集落として利用される。</p> <p>古墳時代後期初頭に古墳群が形成され始め、後期末まで古墳造営が継続して行われる。調査地内では合計10基の古墳を調査し、古墳の築造方法や、埋葬施設の形態の時期的変遷を確認した。なかでも、後期中葉～後葉の21号墳・27号墳で墳丘の増築を伴う追葬を確認したほか、後期末の28号墳では横穴式石室を検出するなど、特に後期後半の古墳で興味深い成果が得られた。</p> <p>中世～近世には集石、土坑、埋設土器などがつくられる。集石には五輪塔や宝篋印塔などの石塔部材を大量に含むものが見られたほか、土坑・埋設土器には火葬骨が含まれるものも確認しており、これらの遺構が墓である可能性が高い。したがって、中世以降には墓地が形成されていたと考えられる。</p>							

鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書 30  
一般国道9号（鳥取西道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ

鳥取県鳥取市

## 松原古墳群Ⅰ

発 行 2010年3月19日  
編 集 鳥取県埋蔵文化財センター  
〒680-0151 鳥取市国府町宮下1260番地  
電 話 (0857) 27 - 6711  
発行者 鳥取県埋蔵文化財センター  
印 刷 株式会社 矢谷印刷所